

令和6年度 第5回葛飾区移動等円滑化促進方針策定協議会

議事要旨

日時：令和6年12月5日（木）15時00分～16時30分

場所：かつしかシンフォニーヒルズ 別館5階 レインボー

出席：会場（委員35名、代理出席4名、事務局6名）

Web参加（委員7名）

欠席（委員9名）

傍聴：0名

会議次第：

1. 開会

2. 議題

（1）（仮称）葛飾区移動等円滑化促進方針（素案）について

3. その他

4. 閉会

（配布資料）

・ 次第

・ 名簿

・ 席次表

・ 資料1 （仮称）葛飾区移動等円滑化促進方針（素案）

・ 資料2 （仮称）葛飾区移動等円滑化促進方針（素案：概要版）

・ 参考資料 令和6年度 第4回葛飾区移動等円滑化促進方針策定協議会 議事要旨

<議事要旨>

(1) (仮称) 葛飾区移動等円滑化促進方針(素案)について

(仮称) 葛飾区移動円滑化促進方針(素案)の内容について、素案(冊子)と概要版を用いて事務局より説明。

「1. (仮称) 葛飾区移動等円滑化促進方針の策定に当たって」について

【情報共有】

- ・「東京都福祉のまちづくり条例」について、葛飾区肢体不自由児者父母の会は上部団体である東京都肢体不自由児者父母の会連合会を通して東京都にバリアフリーについて長年要望をしてきた。その要望は東京都福祉のまちづくり条例に反映されており、葛飾のまちづくりにつながることを願っている。
- ・(上記に続けて) 前回別の委員から視覚障害のある方が信号を渡れなかったお話があったが、この盲導犬総合支援センターからのパンフレット(会議開催前に事前配布)に「盲導犬がしないこと」のところに「信号の色で止まったり進んだりする」と記載がある。さらにどのように声掛けしたら良いかも書かれていたので、お役立ていただければとお持ちした。

「2. 葛飾区の現状」について

(質問・意見はなし)

「3. 葛飾区におけるこれまでの取組と課題」について

【報告】

- ・前回の策定協議会で、協議会の会長から「私のことを知って下さい(山陽電鉄のポスター)」をご紹介いただいて、早速「手をつなぐ親の会」でも紹介した。特別支援学校に通っているお子さんの保護者や福祉就労で職場に通っているお子さんの親御さんから、「障害を理解していただくことに非常に役に立つと思うので、こういったことを進めていただきたい」と意見があったため、ご報告させていただく。
- ・これが全体像の基本構想や促進方針などの中でどのように位置付けていくかは今後議論しなければいけないが、今言われたように気づきになる、障害を理解する、向き合うもののきっかけになればという意図である。この促進方針に直接的に活用できるかどうかは別だが、色々な障害を気づきの場として、どのように知る機会を作っていくか、次のプロセスで事務局として丁寧に作成していくアプローチも今後に向けた検討で取り入れていただければありがたい。

【意見】

- ・区民検討部会でもお願いしたが、東京都福祉のまちづくり条例の「多様な利用者のニーズに配慮したユニバーサルデザインのトイレづくりハンドブック」でトイレの機能の分散化を呼び掛けているため、改修等の際にはこれを守っていただきたい。

「4. 全体方針」について

【意見】

- ・概要版には実際にどのような取組を各施設でやっていくか具体的なことが記載されていない。多くの人が見るのは概要版になると思うので、できれば全体方針の中でどんなことを明確に取

り組んでいくかを表した方が良いと思う。

→この概要版は、今回の素案を説明するための概要版として作成している。この後、区民向け、事業者向けにはリーフレット版（分かりやすい資料）を作成していく予定である。この「4. 全体方針」に関しては非常に重要な内容のため、より丁寧に分かりやすい資料作りを進めていきたい。

- ・概要版の3ページ、「基本方針3 インターネットやデジタル技術を活用した『情報のバリアフリーの推進』」を見て、インターネットにアクセスしづらい方へ情報が行き届くのか疑問に思った。
- ・基本方針3は『全ての人に適切な情報を届けられるような「情報のバリアフリーの推進」』に変更してはどうか。

インターネットやデジタル技術というキーワードを入れると、それだけをもって進めていくのかというように見えてしまうため、それらも含めた様々なツールを使いながら、全ての人に必要情報を分かりやすく届けられるようにしていくという趣旨になればいいかと思う。

→本件については、再考する。

- ・基本方針2の「心のバリアフリーの推進」について、区民検討部会などで様々な意見が出されたと思うが、実現するには移動等円滑化促進方針の策定だけでは難しいと思う。
区の障害に特化した部署など色々な所と協議をしながら、せっかくの色々な意見が繋がるような形になると嬉しい。道路などは目に見えるが、心のバリアフリーは目に見えないため、促進方針に書いてあっても分かりにくい部分が沢山ある。区の関係各課と調整しながら多様な意見を入れて検討していただけたらありがたい。
- ・「気づきのハンドブック」という形で障害を知る、理解するところに特化したものを作っている自治体や、盲導犬について、その関わり方をみんなで知るハンドブックを作っている自治体もある。そういった面では、促進方針のなかでどこまでの内容を具体的に盛り込むかは、一定のラインがある。
区民の皆様方に色々ご協力していただいて幅広い障害に向き合ったうえで、葛飾区の促進方針のなかでどのようなアプローチをしていくかは必要な観点だと思う。区全体の底上げをする意味でも事務局の中でも担当課だけではなく、幅広くご検討いただけるとありがたい。

「5. 移動等円滑化促進地区」について

【意見】

- ・例えば、5-12 ページの亀有駅周辺地区について、足立区側にも生活関連施設があり、そこに繋がる道路であるのに葛飾区内で途切れている。最低限、足立区側の生活関連施設を視野に入れてバリアフリーを進めていかないと区内が進まないのではないかと思うので、このような視点を持って策定いただきたい。
- 促進地区の設定に当たっては、まずは区内の生活関連施設に着目している。今後、重点整備地区として基本構想等を策定する際には、周辺区市の生活関連施設や生活関連経路も考慮しながら進めていきたいと考えている。促進地区については、現在生活関連施設と経路を再チェックしているため、本日のご意見も踏まえ、案に向けて修正等を検討したい。
- ・港区のバリアフリーの協議会で、渋谷区の病院を利用する港区民から、都道を跨ぐ歩道橋に工

レベーターがないため不便だという意見があり、港区の重点整備地区を渋谷区まで拡大して策定したいということがあった。基本構想の枠組みの中で重点整備地区を設定するうえで、区長同士が協議・意見交換をし、結果港区では渋谷区も含めた重点整備地区・生活関連経路を設定したという例もある。そういった面で今のご指摘は非常に大事な点であるので、ぜひこの案件だけでなく、他にも区境のところにも色々生活関連施設としての繋がりがありそうなので、丁寧に取り組んでいただければと思う。

・新小岩駅周辺地区で、都立小岩高校が枠の外の少し離れた所（駅から約 1.4km）にあるが、区の方の利用や、避難することもあるかもしれないので、こういった施設までの経路も検討していただきたい。

→亀有駅周辺地区と同様に検討していく。

・堀切菖蒲園駅周辺地区について、足立区にある東武伊勢崎線「堀切駅」は少し離れてはいるが、ここから堀切菖蒲園に行く人もいるようなので、金町駅・京成金町駅のように 2 駅の範囲としても良いのではないか。

→堀切駅は綾瀬川を渡りさらに荒川を渡った先にあり、距離にすると 1km 以上離れている。

現在、堀切菖蒲園駅の西側の部分を拡大するどうか事務局内で検討しているが、今お話いただいた堀切駅まで範囲を延ばすことは、現時点では考えていない。

「6. 移動等円滑化促進方針の実現に向けて」について

【意見】

・届出制度について、業者の手間にならないように、占用許可や道路使用許可を取るのに警察署へ行くのも大変だと思うので、できるだけ窓口をまとめていただきたい。

→他区・市の事例を参考にしながら、事業者に対して新しい手間をなるべく減らす方法を模索していく。また、他区・市でどのように対応しているかについても、今後 3 月に向けて勉強していきたい。

●その他

事務局より、12 月から実施のパブリックコメント、来年 1 月開催のオープンハウスのほか、各検討部会のスケジュールについて説明。

【質問】

・パブリックコメントとオープンハウスは区民にどのように周知していくのか。オープンハウスというのはどのような形で行われるのか、具体的にわかる範囲で説明してほしい。

→パブリックコメントは、広報かつしかなどに区民の意見を募集する旨を掲載したうえで、1 か月程度募集する。

また、オープンハウスについては、乗降客数の多い新小岩駅と来客数の多いアリオ亀有を会場として、そこを行き交う方々に方針の内容を直接説明する場を設けたいと考えている。

【意見】

・周知の仕方について、広報は戸別に配られるが、実際は SNS やインターネットを活用した方が早くて細かいところまで分かるので、そちらを重要視した方が良い。

移動等円滑化促進方針がどこまで区民に興味・関心を持ってもらえるか。生活に直結するよう

な大事なことを皆さんに周知できるかは重要で、生活の中に入り込める広報ができればいい。お子さんは大人の考え方と違うということもある。周知の方法を考えられると良いと思う。

- ・区民に知って理解してもらい、関わってもらえるように情報発信を丁寧にしていただきたいと思う。広報やインターネットも活用して、いろんな媒体を活用して周知に努めていただければと思う。

→子どもという観点では、小学校・中学校の校長会長にもご協力をいただいて、子どもたちの意見も聞くパブリックコメントを検討しており、その準備を進めている。